



令和5年 1月10日

七尾市立石崎小学校

あけましておめでとう 2023

いつもより長かった冬休みも終わり、新しい年が始まりました。『1月は行く、2月は逃げる、3月は去る』と言われるように、この3ヶ月間はいつも以上に時間が早く過ぎていくように感じます。こころで自分の力を思いっきり出せるように、1日3回の食事を好ききらいなくとり、時々からでも動かしながら、健康第一に過ごしましょう。



あなたの家のお雑煮は？

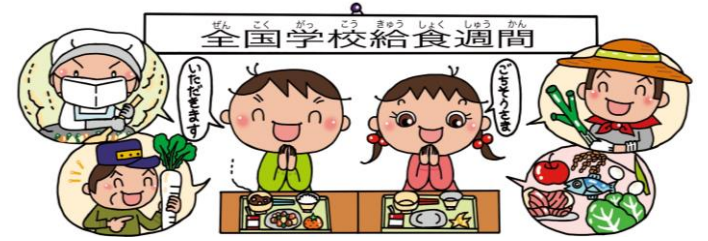
周りを海に囲まれている島国の日本は、南北に長い地形が特徴です。地域によって気候が異なることから、各地でさまざまな食文化が形成されてきました。現在では昔から伝わる料理を家庭で作って食べる機会が減ってきていますが、お正月に食べるお雑煮は、地域や家庭の味が受け継がれているものの1つではないでしょうか。だし、味つけ、具、もちの形…あなたの家では、どんなお雑煮を食べますか？

中部地方を境に、東は角もち、西は丸もちを入れる所が多いです。北海道や沖縄県には、もともと雑煮を食べる文化がありません。現在、北海道では、さまざまな地域から伝わったお雑煮が混在しています。

▶香川県では、あん入りの丸もちを白みそ仕立ての汁に入れた「あんもち雑煮」を食べます。



学校給食は、明治22年、山形県鶴岡市で初めて実施され、全国各地に広がりました。第二次世界大戦が終わった後、食べ物もなく、子どもたちは空腹と飢えに苦しんでいました。そんな日本の子どもたちを助けようと、世界中の国々から粉ミルクや缶づめなどがおくれ、学校給食が再び始められたのです。『全国学校給食週間』は、この世界中の人々の温かい心に感謝し、学校給食が再開されたことを記念する週間です。



この期間を通して、給食の歴史をふり振り返り、食べ物の大切さや作る人の思いを知り、感謝の気持ちをもって食事をするのできる人になってほしいと思います。

食事のあいさつの意味を知ろう！

食事の前と後で、きちんとあいさつができていますか？ 食事のあいさつの意味を知り、感謝の気持ちを込めて、しっかりあいさつをしましょう。

いただきます

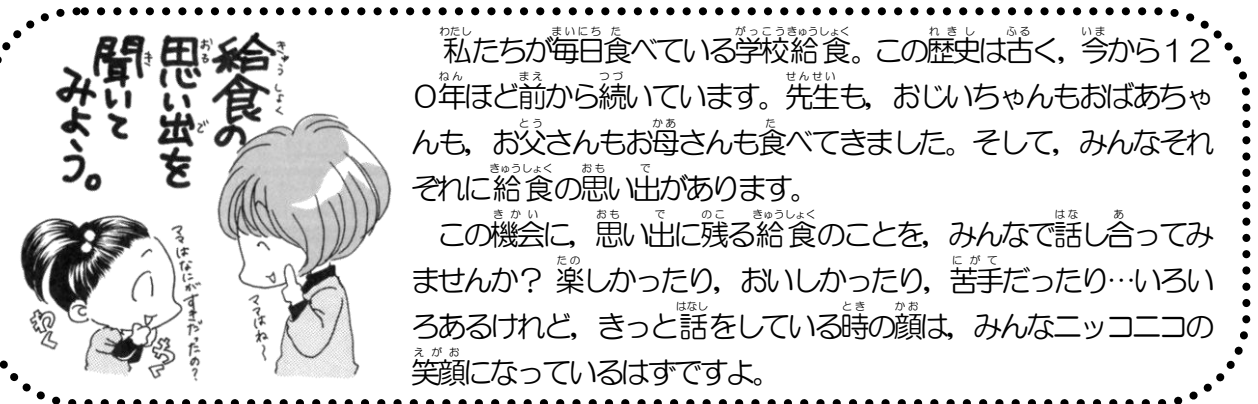


山のでっぺんを「頂(いただき)」といいます。昔、大切なものをもらうとき、一度頭の上に掲げ、かきこめて頂戴したことから生まれた言葉といわれます。さらに食事で動物の命を「いただいて」いること、食事ができることへの感謝の気持ちも込められています。

ごちそうさま



「ちそう(馳走)とは、「走り回る」という意味です。昔、大切な人をもてなすために遠くまで駆け回り、食べ物を集めてくれた人への感謝を表す言葉です。毎日食事ができるかげには、さまざまな人の仕事や協力があります。そのことに感謝してあいさつをしましょう。



私たちが毎日食べている学校給食。この歴史は古く、今から120年ほど前から続いています。先生も、おじいちゃんもおばあちゃんも、お父さんもお母さんも食べてきました。そして、みんなそれぞれに給食の思い出があります。

この機会に、思い出に残る給食のことを、みんなで話し合ってみませんか？ 楽しかったり、おいしかったり、苦手だったり…いろいろあるけれど、きっと話をしている時の顔は、みんなニッコニコの笑顔になっているはずですよ。